

男女平等推進
from
むさしの

まなこ



社会の中のルッキズム

美の基準に振り回されないために・・・ P.2

「痩せている=よい」とされる社会でープラスサイズモデルとして・・・ P.4

見た目って大事？

社会の中のルッキズム

美の基準に振り回されないために

最近耳にする「ルッキズム」、外見差別の問題について研究されている西倉実季さんに伺いました。

■ルッキズムとは

「ルッキズム (LOOKISM)」とは、学術的には、外見 (ルックス) に基づく差別や偏見と定義されています。1970年代のアメリカで、太っているとだけ人としての尊厳を脅かされるような差別や偏見を経験してきた人々によるファット・アクセプト運動 (体型の多様性を擁護し、肥満差別の撤廃を訴える運動) の中で初めて使われた言葉です。サービス業中心の現代社会において、人と接する仕事や就業の大部分を占めるようになったこともあり、2000年代以降、雇用などの公的な場面でのルッキズムの研究が多くなされてきています。たとえば、顔立

ちや体型、髪型や服装を理由に採用されなかったり、低い評価を受けたりすることが差別として研究対象となっています。日本では、「ルッキズム」は「見た目重視」や「外見至上主義」を指す言葉として使われており、恋人選びなどの私的な場面を含めて、人を見た目で判断することそのものは是非が問われがちです。本来、ルッキズムは、外見が評価されるべきではない場面で評価の対象となり、一部の人が不利益を被るような差別を指すので、意味合いが異なります。ただ、私的な場面での外見評価を野放しにしておいてよいということではありませぬ。公的な場面で外見により差別されることと、私的な場面を含めて特定の外見が「魅力的」「美しい」とみ

なされることは、互いに影響を与え合っていると思います。

ルッキズムは、性差別、年齢差別、人種差別、障害者差別などと切り離せない問題でもあります。たとえば、化粧やパンプス着用がマナーとされ、日常において頻繁に外見評価にさらされるなど、外見のよさは男性に比べて女性により強く求められており、ルッキズムは性差別と密接に関係しています。また、白人的な外見の特徴が非白人的な外見の特徴よりも「魅力的」とみなされるといふ偏りもみられます。

■美の願望の背景に目を向けて

ルッキズムは、一人ひとりがきれいになりたい、かっこよくなりたいと望む生き方を否定する考え方ではありません。日常的に望まない外見評価にさらされているとしたら、無理もない状況だとも言えます。

■国内外の動き

ルッキズムの問題は、日本に限ったものではありません。例えば、アメリカやオーストラリアの一部の州や地域には外見に基づく差別を禁止する法律や条例があります。フランスでは、現実とかけ離れた理想のボディイメージを見せられることで、若者が摂食障害などの健康被害を起こしてしまう可能性があるという理由で、痩せすぎのモデルを起用することを禁止する法律ができました。画一的な理想像にとらわれずに、身体の多様性を尊重しようという動きがあります。

■自分の容姿に誇りを持っているか 対象：各国 満13歳～満29歳までの男女 (%)

	誇りを持っている	どちらかといえば誇りを持っている	どちらかといえば誇りを持っていない	誇りを持っていない
日本	6.0	25.9	42.4	25.7
韓国	14.6	45.4	29.3	10.7
アメリカ	38.6	37.3	17.3	6.9
イギリス	27.6	40.7	22.7	8.9
ドイツ	21.1	50.7	22.8	5.4
フランス	24.6	47.2	20.8	7.5
スウェーデン	21.2	44.4	25.6	8.8

内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(平成30年度)より抜粋し作成

のだとすれば、その背景にはルッキズムの問題があるとも言えます。個人が外見を気にかけることがよいのかどうかという点が議論されてしまいがちですが、その背景にある社会的な問題に焦点を当てる必要があると思います。一人ひとりの女の子がダイエットや美容整形をすることが是非かを論じる前に、なぜそんなに自分の外見を変えたいと思うのか、そこに働いているメディアの影響や仲間集団の圧力などに気づき、教育などを通して個人の外見に対して働く社会的な力を理解していくことが大事ですね。

近年、自分の身体を投資の対象のように考え、お金や手間暇をかければ変わるもの、外見のせいで不利な目にあうのは努力をしないで怠けているからだ、という風潮があると危惧しています。私たちは日々「外見をよくするように配慮しなさい」というメッセージにさらされていて、外見が良くないと不利になるのではないかと、外見の改善に駆り立てられているように感じます。そういう状況を作り出す社会に目を向けてほしいです。

日本では、まるでその日の天気について話すように、「最近太った?」といった会話をすることがあります。海外では、外見は差別の問題と関係するため、安易に言及するのは望ましくないと考えられています。日本ではその認識があまりにも希薄です。また、外見を褒めることも、褒めているのに何がダメなのかと思われませんが、外見が関係しない場面や状況で外見の良し悪しが持ち出されるという意味では問題ではないでしょうか。日本では自分の意思とは無関係に、日常的に見た目の評価がされ、劣等感にさらされる機会が多いと思います。国際比較を見ると、日本の子どもたちの自尊心が低いと

私たちが見た目にとらわれすぎずに生活するためには、どうすればよいのでしょうか。また、美しくなりたいという願望とルッキズムは、どう違うのでしょうか。今回は、ルッキズムについて考えてみました。

西倉実季さん

東京理科大学教養教育研究准教授。専門は社会学。著書、論文に「顔にあざのある女性たち」問題経験の語り」の社会学(生活書院)、「ルッキズム」概念の検討ー外見にもつく差別」(和歌山大学教育学部紀要) など



ません。それぞれが自分の身体とどう付き合うか、身なりを整えたいとか、おしゃれをしたいとか、そういうことも当然尊重されるべきだと思います。一方で、女子は小さい頃から自分が望まない場面で、誰々が一番かわいいなどのランク付けを日常的に経験しています。その結果、嫌な思いをしないためにもっとかわいくなりたいと思う

■不用意なひと言への気づき

相手の外見について話題にしたただけで「差別」などと言われてしまうと、人間関係がギスギスするという方がいますが、今まで関係の潤滑油だと思っていたことが、相手を傷つける可能性があるかもしれないことに気づくことが大切です。場を盛り上げるために発したつもりりの言葉でも、それは本当に必要なコミュニケーションなのかということです。

以前、おもに30〜40代の女性たちの外見に関する体験談を聞く機会がありました。周囲の大人にきょうだいの外見と比べられた、親に太ったと言われたなど、小さい時の経験が忘れられないという方が多くいました。自分の外見がよくないから嫌な目にあっただと自分を責めるだけでなく、個人的に抱え込んで誰にも話せなかったというところに、問題の根深さを感じました。

小学生でも、すでにルッキズムを感じて生活している可能性があると思います。自分の外見を直接けなされたわけではなくても、自分ではない誰かが褒められる経験から、価値の序列を読み取ってしまったのかもしれません。無意識に刷り込まれる美の価値観

に対して劣等感を抱き、子どもたちの自尊心が損なわれてしまわないよう、大人の気づきが必要ですよ。

「リテイ教育ガイド」の中には、「ボディイメージ」という項目があり、各年齢で何をどう学ばせるかが設定されています。例えば、9〜12歳では「身体的外見は人としての価値を

決めない」ということを学びます。ルッキズムの問題を認識したり、現実とかけ離れた理想のボディイメージを批判的な角度から見極めたりするために、重要な意味を持つ教育ではないかと思っています。

■自由な価値観を持つように

私たちが「魅力的」「美しい」と思う身体はあまりにも画一的なのではないかと疑い、もっと多様な美のあり方を探っていくことは大事かもしれません。ですが、多様な美を提示する以前に、現実の私たちの身体がそもそも多様であることを認識することも大切です。ルッキズムは個人

が外見を変えることによって解決するような問題ではありません。こういう外見であるべきだという社会規範や特定の外見を理想化するメディアのあり方、女性に身体的な美しさを求める文化といった社会の構造が生み出している現象だと捉えることが、ルッキズムを解消していく第一歩につながります。自他の身体を尊重できるような価値観を若い世代が持つためにも、そうした価値観を育む教育や社会制度といった解決方法につながるよう、一人ひとりが社会構造の問題として捉えることが今一番必要です。

【取材 若林優香／取材 文 久富明美】

「国際セクシュアリティ教育ガイド」

ボディイメージ

学習目標 (5〜8歳)

キーアイデア
すべてのからだは特別で、個々に異なりそれぞれにすばらしく、からだに対してはポジティブな感情を抱くべきである

学習者ができるようになること

- 誰のからだも特別で個々に異なりそれぞれにすばらしいことを再認識する(知識)
- 自分のからだに誇りをもつことの意味を説明する(知識)
- 自分のからだをポジティブに認識する(態度)
- 自分のからだについてどう感じるかを表現する(スキル)

学習目標 (9〜12歳)

キーアイデア
身体的外見は人としての価値を決めない

学習者ができるようになること

- 身体的外見は、遺伝、環境、健康習慣によって決まることを説明する(知識)
- 身体的外見は、その人の人としての価値を決めるものではないことを認識する(態度)
- 仲間同士においても、身体的外見の違いを認め合う姿勢を示す(態度)

キーアイデア
身体的外見において、何を魅力的と感じるには大きな差異がある

学習者ができるようになること

- 身体的外見において、人が魅力的だと思う部分の差異を説明する(知識)
- 人が何を身体的に魅力的と思うかは、時とともに変化し、文化によっても異なることを認識する(態度)
- 自分自身は何を魅力的と感じているのか、そしてそれは周りが魅力的と感じているものとどう異なるかを省察する(スキル)

【国際セクシュアリティ教育ガイド】改訂版 科学的根拠に基づいたアプローチ ユネスコ編(明石書店)より抜粋
※12歳以上の学習目標については、左記二次元コードを参照

「痩せ」が求められる社会で、プラスサイズモデルとして

かつて過度なダイエットから摂食障害も経験したという吉野なおさん。プラスサイズモデルとして活躍しながら、社会に対してさまざまな発信を行っている吉野さんにお話を伺いました。

■今の仕事について

日本で唯一の、ぽっちゃり体型の方のためのファッション誌で、2013年の創刊時からモデルの仕事をして

います。私は以前、過度なダイエットから摂食障害になってしまったのですが、ちょうど自分の体型を受け入れて生きていくと思った矢先に編集者と知り合ったこともあって、プラスサイズモデルの仕事

を始めました。また、講演や取材で摂食障害の経験をお話ししたり、コラムやSNSを通じて、悩んでいる方が少しでも気が楽になれるような情報を発信しています。



吉野なおさん

ファッション誌「ラブ・ファッション」(交友舎)でプラスサイズモデル(大きいサイズ/ぽっちゃり体型)のファッションモデルを務めるほか、摂食障害の経験を元に、講演「コラム執筆 SNSなどで情報発信を行っている

■幼少期から体のことを否定されてきた

一番初めは保育園の頃、突然年上の男の子に「デブ」と言われて、近くにいた先生が「そんなこと言っちゃいけません」と慌てるというシーンを鮮明に覚えています。彼の「デブ」という言葉は、私の体型を否定するものだと何となく気付きました。小学校に入ってから公園で知らない女の子に「何キロ?」と聞かれて答えると「〇〇キロだつて」と遠くで笑っている。小学校高学年になったら、体重が重いという生理が早いという噂を聞いてきた男子に「お前もう生理あるのか?」と聞かれたこともありました。今なら「デリカシーが無いな」と思いますが、その

ときは「太っている私が悪いんだ」と、言い返すこともできませんでした。中学生になって着たい服が入らないという悩みも出てきましたが、ダイエットを決意したのは高校生になって恋愛がうまくいかなかったときです。友達には彼氏ができたはじめたのに、私の場合は写真を見ただけの相手に断られてしまうこともありました。そして、ようやく仲良くなった男性から「痩せてほしい」と言われたのが高校2年生の時。そこから私の終わりが見えないダイエットが始まりました。

■社会やメディアの影響

ダイエットの動機は個人的なものと思われがちですが、実は社会から受けている影響もとても大きいので



吉野さん作成のダイエット広告風「ビフォーアフター」

摂食障害

食事の量や食べ方など、食事に関連した行動の異常が続き、心と体の両方に影響が及ぶ病気のこと。症状によって神経性やせ症・神経性過食症・過食性障害などに分けられる。

■摂食障害について

摂食障害のきっかけはさまざま、受験で食べるのも忘れるくらい勉強に集中した結果、食べられなくなってしまつケースもあります。何か強いストレスがあつて自信を失くしている場合も、体重の数値が減ることで、自分を

■アパレルサイズについて思うこと

ファッションに憧れがあつても着られるサイズの服がないために、私は社会で女性として生きていてはいけないというように感じていました。

ヒューマンあい だより

●男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や印刷機の利用、補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

TOPICS

ホームページなどで情報発信しています

男女平等推進センター「ヒューマンあい」の取り組みを、ホームページなどで情報発信しています。アクセスしてみてください。



ホームページ



「まなこ」バックナンバー

講座レポート … …

●女性のための再就職&転職ナビ講座 (全2回)

日時>令和4年3月7・14日(月)
10:00~12:00

場所>市民会館2階 講座室

講師>津村治美さん
(研修講師・キャリアコンサルタント)

第1回『なぜ働きたい?』

再就職 / 転職したい動機を確認し、スキルの棚卸しと家庭環境の見直しを行いました。

第2回『どう見せる? 自分の強み』

自分の長所、短所を見つめ、自己分析を行った後、面接の練習を交えながら自己PRを学びました。

令和3年度 第4回「まなこ」サポーター会議
113号「ケッコンの形」を読む

◎いつもの号と違い、有識者の話から始まるのではなく、編集委員の対話やラベルワークから始まり読みやすかった。
◎自分を見つめる機会となり、家族に置き換えて読むことができた。
◎「夫婦別姓選択制をすすめる会」の1999年に行ったアンケートから36年以上たつのに進まないのは、日本の戸籍制度がネックになっているからだろうか。
◎ケッコンは本来素敵な出来事のはずなのに、縛られたり、アイデンティティや人権をないがしろにされたり、つらいものになってしまつたのは残念である。
◎同性カップルの特集で、ふつと暮らしている自分たちを受け止めてほしい、さらに「一歩進んで」「受け止めてい」と言葉で伝えることを求めている方もいると知ることができた。
◎他愛のない立ち話がかミングアウトになってしまつたかもしれないから、言葉を選びながらの会話がストレスになるということ、自身の経験からもよくわかる。

[文 島崎理恵]



令和4年3月 市役所813会議室にて

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談

【相談時間】 1回50分/予約制

第1土曜日	①13:00~ ②14:00~ ③15:00~
第2金曜日	①18:00~ ②19:00~
第3月曜日	①14:00~ ②15:00~
第4火曜日	①9:00~ ②10:00~ ③11:00~

◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談

【相談時間】 1回30分/予約制

第1土曜日	①9:30~ ②10:10~ ③10:50~ ④11:30~
-------	--------------------------------

【申込み方法】 「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。

【予約電話番号】 0422-37-3410 (木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)

◆むさしのにじいろ相談(性的指向・性自認に関する相談)

セクシュアリティ全般や性的指向・性自認に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30~20:30
-------	-------------

▶電話相談: 0422-38-5187 ※予約不要

▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。
0422-37-3410

BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から 貸し出しています!

『クソ女の美学』

ミン・ソヨン著 岡崎 暢子訳 (ワニブックス刊)

痛快! 女性が日常のシチュエーションで、こままで男性諸氏に理路整然と言いつつ気分爽快と感じさせてくれる内容。

自分が女という理由だけで、自分の能力・経歴・努力・ルックスが「当たり前」のようにけなされることが嫌。そんなことを考えて自分自身を嫌いになることが大嫌いな著者の気合の入った作品。

[文 島崎理恵]



私がモデルを務める雑誌の創刊時の編集長もぽっちゃり体型の方で、こういう雑誌が必要と感じていたらいいのですが、「ファッション誌の作り方を知らないから実現した」そうです。雑誌に掲載する服は、アパレルメーカーから発売前のサンプルを借りてきて撮影します。ところが、メーカーが用意しているサンプルのほとんどは普通サイズなので、撮影用に大きいサイズの服を調達することが本当に難しかったそうです。こういう業界の内幕を知らなかったからこそ、雑誌を作れたのかなと思います(笑)。

旅行先のヨーロッパでは、自分のサイズの服をお店で試着して買えたので、「ここで思春期を過ごしていたら自分のことを嫌いにならなかったのではないか」と思いました。欧米は、そもそもいろんな人種の人がいって体格差が大きいので、サイズ展開が多くても売れるということがあるのでしょうか。

日本のアパレルメーカーとしては、売れるサイズのものを作っているのかもしれませんが、実際のところ、「服のために体を合わせる」と感じることはありません。巷にあふれるダイエット情報をまねて細身になる、標準とされる細身の服が売れる、メーカーは標準サイズの服しか作らなくなる。あ

るいは、標準サイズの服しか市場に出回っていないから、ダイエットをするのか。もはや「卵が先か、鶏が先か」というような状態なのです。今でも実店舗経営で大きいサイズを作っているメーカーは、全国展開しているり、世界的にシェアが高いようなファストファッションのブランドが中心になります。

「つらい思いをした私に なげなごん」

私は、中学校などで摂食障害についてお話しする際には、経済や社会の仕組みについてもお話しするようにしています。日本のダイエット市場は2兆円規模とも言われ、とても儲かる業界なんです。だからスマホでちょっと検索したらどんどん偏ったダイエット情報や関連動画が出てくるようになるし、実際には効果のないサプリメントでもSNSで紹介したら売り上げの一部がその人にいくという仕組みもあります。

思春期は、自分が社会の中でどういう存在か考え、見た目を気にしやすいう時期だと思っています。子どもが「痩せ」を意識したときの対応として、なぜ痩せたいと思うのか、大人も一緒に考えてみてください。子どもの気持ちを否定するのはなく、寄り添っていただ

けたらと思います。身近な大人が「あなたはそのままでいいんだよ」と言いながら、テレビを見て太っている人を見下すような態度を取ったら、子どもは太っていることを悪いことと受け取りがねませんよね。

ぽっちゃりしている女性がおしゃれをしたかったら痩せろと言われてしまいう社会で、私がモデルの活動をしたら、「その前に痩せろ」とか「調子に乗るな」とかひどいことを言われるだろうという不安もありました。でもこういう社会で生きてきて、私は体型に悩み、摂食障害にまでなりました。縁があつて、モデルの仕事ができることになって、つらい経験がある私が社会を変えたい、今こそ頑張り時だと思つたんです。

雑誌が発売されて、否定的な意見もありましたが、「こういう雑誌を待つて

いた」「自分もおしゃれをしていいとわかった」「引きこもっていたけれど、好きな服を着て外出できるようになった」というポジティブな感想が圧倒的でした。今でも私の記事をよく読んでいないような人から体型批判をされることもありませんが、そういう人を一人ひとり説得する時間はもつたないと思つてしまします。悩んでいた当時の私にロールモデルとなるような存在はありませんでした。どういう人がいたら自分は生きやすくなったか、自分がそうありたいという思いが、モチベーションになっています。

これからも、必要としてくれる人に向けてメッセージを発信していこうと思つています。

*BMI 体格と身長から算出される肥満度を表す体格指数

【取材 秋山茉莉奈/取材・文 藤田和香子】



「自分の身体を嫌いにならず、大事にしてほしいです」と語る吉野さん

武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階
電話: 0422-37-3410 FAX: 0422-38-6239

開館時間: 午前9時~午後10時(木曜・年末年始 休館)
Eメール: danjo@city.musashino.lg.jp

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

活動補助金事業を紹介しす

上映会と講演会

「福島を聴く・見る・測る」

日時：令和4年3月19日(土)
14:00～16:30

会場：スイングビル スカイルーム

講師：佐尾和子さん(婦人国際平和自由連盟日本支部会員) / 高崎方子さん(婦人国際平和自由連盟日本支部読書会・日本支部福島フィールドワーク委員会委員)

主催：むさしの男女平等推進市民協議会

共催：一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会武蔵野支部



令和4年度『まなこ』サポーターを紹介しす！

●鈴木章

ジェンダー平等という課題が大きいだけに、まずは身近なところから考え、そしてひとつひとつ実践していきたいと思っています。

●柄目茜

出産までは仕事に夢中でしたが、出産を機に男女の共同参画に携わりました。興味のあるテーマはアンコンシヤス・パイアスです。

●塚脇未来子

男女平等を声高に叫ぶと何だか重い。でも問題の縮図は家庭や学校の中に。多感な頃の自分に読ませるつもりで携わっています。

●中村邦子

誰もが誰をも尊重できるような世の中は、地元から。皆が無理せず自分らしく生きられるように次世代の背中を押していきたいです。

●沼田仁子

SDGsの目標の一つであるジェンダー平等。まずは関心を持ち身近なことから取り組めることは何かを『まなこ』を通して考えていきたいです。

●羽柴史美

「男女平等」という言葉が何か懐かしいように感じる昨今。多様な生き方としての平等に視点をおき、活動できればと思っています。

●宮代エリサ

「まなこ(眼)」のサポーターとなり、「男女平等推進の視点」という、私にとって全く新たな視点が、普段の生活に加わりました。

●森田あゆみ

「まなこ」をきっかけに、武蔵野市のことや世の中の出来事を知り、「自分はどうしたいのか」を考える時間を持ちたいと思っています。

●山本文美子

無意識に社会が想定する女性の役割に、子供の頃から違和感を覚えてきました。様々な属性の人が暮らしやすい社会を願っています。

●渡辺桜子

子どもたちがのびのびと自分らしく生きられる、多様性が当たり前の社会を目指して、小さな一歩を踏み出したいと思っています。



『まなこ』サポーターの200コラム

「見た目」にまつわる経験

外見には内面が表れるって本当？

柄目茜

私自身、外見で判断されることも判断してしまふことも経験したので、社会生活において見た目が重視される事は理解している。

しかし、人の外見にはいくつもの要素が含まれている。自分の意思や努力で変えられるものと変えられないもの。さらに、その人の内面が外見に表れているものと表れていないもの。これらが一緒になってその人の見た目を作り出しているから、外見だけで内面まで理解したつもりになってはいけないと思う。

ありのままの自分を受け入れた健康美を

中村邦子

かれこれ三十年前、ぼつちやり体型の友人に「痩せろ」とことあるごとに苦言していた。彼女は意に介す風ではなかったが、そのお母様様が「せつかく可愛い顔に産んであげたの」と言うのに乗じて、皆で「痩せろ」を繰り返していた。月日を経て、定期的にジムに通っても痩せない体質の友人たちからありのままの自分を受け入れた健康美を示された。時代のせいにも無知のせいにもできないけれど、いつか再会したら友人に謝りたい。

無垢な瞳に見つめられ

宮代エリサ

10歳の息子から突然の質問。「今って二重がはやってるの?」「別に今特別はやってるわけじゃないけど。なんで?」「じゃあどうして手術で二重にするの?」「どうやら整形手術のCMを見て感じた疑問のようだ。私を見つめる一重まぶたのキラキラ輝く瞳に、返す言葉は見つからない。一度持った偏見を削ぎ落とすことは難しい。何気ない会話で、偏った見方を植え付けたくないから感じた。

Editors' Notes * 編集後記

過度に痩せようと思って痩せてしまったことも、自然なほどに目を二重にして目が腫れてしまったこともある。だからこそ、今回の特集を編集するのが少し苦しかった。大きな社会の視線は、誰かを傷付けているかもしれない。(秋山茉莉奈)

20代の頃、毎年新入社員が大量に入社すると、自分の商品価値(見た目や若さ)がないのではと不安になり落ち込んだ。自分にはスキルや経験があると気がつく不安は消えていったことを思い出す。(島崎理恵)

「顔採用」「顔面偏差値」「イケメン」、巷では外見に関する言葉があふれている。美醜に「喜」愛した若さ。子どもの自己肯定感を下げるような不意な言葉を投げないような大人でいたい。(久富明美)

見た目で人を差別するような発言を子どもがしたら、それは、メディアや周りの大人の態度に影響を受けているからだろう。その責任の重さを私たちは自覚しなくては。(若林優香)

SNSの影響もあるのか、つい自分を他人と比べて無駄に落ち込んでしまつことが増えたように思う。ありのままを認められる自分でいたいと共に、認め合える社会を望む。(若林優香)

* STAFF *

サポーター 鈴木章 柄目茜 塚脇未来子 中村邦子 沼田仁子 羽柴史美 宮代エリサ 森田あゆみ 山本文美子 渡辺桜子
取材・編集 秋山茉莉奈 島崎理恵 久富明美 藤田和香子 若林優香 武蔵野市男女平等推進センター担当職員
編集協力 栗原毅
表紙デザイン ふじわらりわ
レイアウト 上田ジュンコ
印刷 シンソー印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバーを
ご覧いただけます。

武蔵野市 まなこ

検索